

日本気象学会 100 年史補遺と訂正

本誌29巻第4号(1982)に100年史を掲載したが、限られた紙面で意を尽せなかった点が多い。その後全国の理事や会員の方々から不備の点を御指摘いただいたので、それをまとめて掲載する。この中には編集執筆を担当した筆者の不注意で御迷惑をおかけした点もあるので、お詫びを申し上げます。なお、筆者個人として大幅に補いたい部分もあるが、紙面の都合もあるので最小限の事項を列挙するに留めた。(河村 武)

- 本文中に藤原咲平についての記載がないとの指摘があった。これは最近25年に主体を置いたためである(藤原先生は、1950年に亡くなられた)。昭和15年から昭和23年まで、日本気象学会の幹事長、あるいは理事として多大の貢献をされただけでなく、東京大学教授として多くの気象学者を育て、また戦時中から戦後にかけての中央気象台長として、気象業務の遂行と復興に貢献されたことは改めて述べるまでもない。その遺業は当学会の藤原賞として、今日なお続いている。詳細は、信濃教育第923号(1963)に掲載されているが、ごく最近、NHKブックスに和達・高橋・根本の共編で「お天気博士 藤原咲平」が刊行された。須田滝雄「岡田武松」(岩波書店)とともに、側面的な資料として役立つ点が多いことを付記する。
- 支部活動として若干の補遺の希望があった。
関西支部：昭和28年10月15日の学会総会で設置を決定

し、同年12月に発足した(支部長 滑川)。なおこれより前、昭和26年11月11日、京都大学で気象学会総会が開催されている。

沖縄支部：発足は昭和47年5月16日であるが、日本に復帰する前は個人的な日本気象学会員が22名ぐらいいた。なお米国気象学会沖縄支部があり、会員10名前後で、例会を持ち回りで開いていた。

○本誌29巻332頁追加事項。

- ・学会賞 昭和33年度 山元龍三郎：微気圧波に関する研究
- ・奨励金受領者：1975年 鈴木和史・岸田和博
1981年 細野正敏・西本洋相
- ・関西支部奨励金受領者：昭和54年 堀口善一、55年 沢本弘志、56年 増井初水、渡部浩章、57年 前田一郎、椎木 基、中田隆一。